

授業科目名 ( 英文名 )	教育相談 (School Counseling and Guidance)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	2年次・前期集中
担当教員	井上 靖子	所属	環境人間学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>主に教育現場におけるカウンセリングの理論に関する基礎知識を学び、多様な背景を持つ子どもや親に対するカウンセリングの技法を学び、実践力を身につけることを目的とする。いじめ、発達障がい、虐待、不登校、思春期危機等の心の諸問題に対する理解を持ち、どのような配慮や関わりをもっていくのがよいのか、各自が主体的に考えられるようになることをめざす。</p> <p>本講義の到達目標は、1)昨今の子どもを取り巻く現状を把握し、カウンセリングについての基礎知識を理解する、2)カウンセリングの技法を実践する、3)1)と2)をふまえて、対象者の特性を見立て、それに応じてカウンセリングを実践していく力を身につける、である。</p>		
講義内容・授業計画	<p><b>【講義概要】</b> 本講義では、最初、各自の学校体験を振り返り、教育現場を取り巻く現状や課題について認識する。カウンセリングの基礎知識を習得し、カウンセリングの技法を学ぶ。特に学校だけではなく、家庭、地域、関係機関等との連携、協働の必要性も学ぶ。また、児童や生徒、保護者の心の諸問題（いじめ、発達障がい、虐待、不登校）に対する理解を持ち、事例に即したアセスメント力や実践力を養う。</p> <p><b>【授業計画】</b> 1. ガイダンス 本講義の目的と概要説明 心の捉え方 2. 各自の学校体験を振り返る-KJ法 3. 子どもを取り巻く家庭・学校・地域の諸問題 4. カウンセリング理論の基礎知識を学ぶ 5. カウンセリング理論の実践課題を学ぶ 6. カウンセリングの実践事例を学ぶ 7. カウンセリングの技法(傾聴)を学ぶ 8. カウンセリング演習：言語的コミュニケーション 9. カウンセリング演習：非言語的コミュニケーション 10. カウンセリング演習：自己肯定感を育む 11. 子ども心の諸問題の理解と対応（性暴力への対応等）外部講師による講演 12. 子ども心の諸問題の理解と対応（いじめ） 13. 子ども心の諸問題の理解と対応（発達障がい） 14. 子ども心の諸問題の理解と対応（不登校） 15. まとめと評価 学期末試験</p>		
テキスト	講義時間中に適宜、プリントを配布したり、その都度、参考文献を紹介する。		
参考文献	<p>小野田正利他（2015）『体験型ワークで学ぶ教育相談』大阪大学出版会 吉田圭吾（2007）『教師のための教育相談の技術』 金子書房 河合隼雄（1992）『子どもと学校』岩波新書</p>		
成績評価の基準・方法	<p><b>【成績評価の基準】</b> カウンセリングの理論に関する基礎知識を理解し、カウンセリングの技法を学び、実践力を身に付けようと努力した者に単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力（知識、思考力、理解力、実践力、想像力等）の到達度に応じてS（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。</p> <p><b>【成績評価の方法】</b> 学期末試験60%、演習のレポート20%を基準として、受講態度20%（出席数、講義でのコメント、演習への取り組み、積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。特別な事情がない限り、単位認定は2/3以上の出席者に限る。 オンライン授業となった場合、学期末試験60%の代わりに、ユニバーサルパスポート</p>		

	からの課題提出60%、演習レポート20%を基準として、受講態度20%（出席数、講義でのコメント、演習への取り組み、積極的な質問等）を含めて総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習を主とするので、積極的な講義への参加姿勢が求められる。特別な事情がないのに20分以上過ぎての遅刻は欠席扱いとなる。また、集中講義でもあるので、よほど特別な事情がない限り、半日以上欠席は単位が認められないので注意してください。どうしても欠席する場合は、所定の用紙に理由を記述して提出する。その理由によって考慮する場合がある。</li> <li>・履修にあたっては、十分な予習・復習をして講義に出席する。</li> <li>・当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定があるが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とする場合があり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合がある。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡する。</li> </ul>
実践的教育	臨床心理士、公認心理師の資格をもつ教員が、カウンセリングの演習、相談実践事例の検討を指導すること、臨床現場に関わる外部講師による様々な心の問題に関する講演も取り入れていることから、実践的教育に該当する。
備考	<p>担当教員の専門は臨床心理学であり、心理療法の実践や心理臨床実践研究を行っている。本講義は主として、担当教員の専門分野のうち、学校心理臨床における理論と実践を解説するものである。教員の心理臨床実践研究を知りたい学生は、下記のホームページなどを参考としてください。</p> <p><a href="https://researchmap.jp/roselily/research_areas">https://researchmap.jp/roselily/research_areas</a></p>